

かがやき

「この病院を受診してよかった」と満足していただくために



副院長(看護部長)
川島 英子

当院は、患者さんそしてご家族の皆さんに満足していただける病院であるために、患者さんのニーズを理解しそれに応えているかを常に考え、努力を続けています。意見箱の設置、患者アンケートの実施はそのひとつです。

最近では平成22年2月に患者アンケートを実施しました。その結果、設備等に関する印象は表1のとおりとなりました(一部抜粋)。

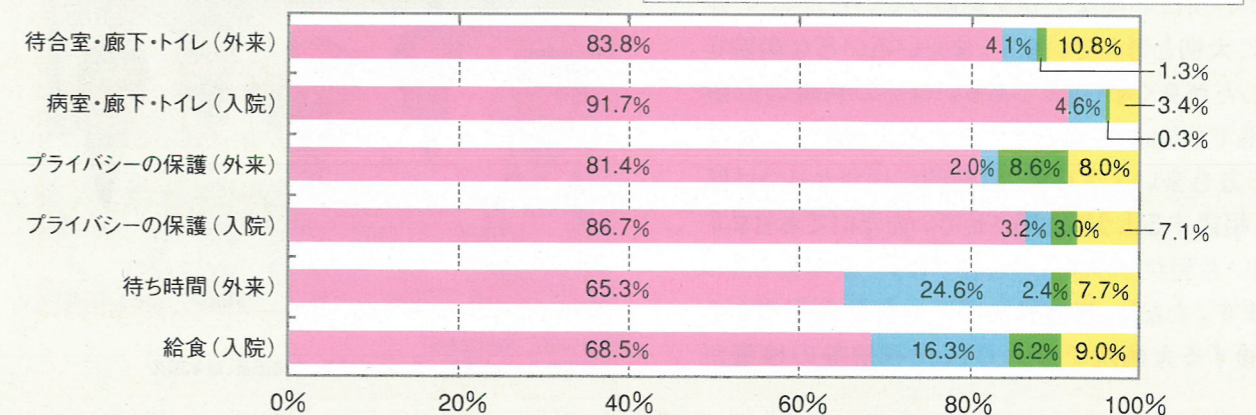
自由記載では、感謝64件・待ち時間46件・職員の態度30件・その他、表示や駐車場等のご意見、要望を頂きました。待ち時間の問題は病院の大きな課題と捉え、詳細な待ち時間調査等を行い対策を検討しています。当院を選ばれた理由のうち、入院患者の51.5%、外来患者の35.5%が「他の医療機関からの紹介」でした。当院は地域の医療機関との連携を密にしています。皆さんが「かかりつけ医」を持たれ、必要時に医療機関からの紹介で予約受診して頂くことも待ち時間対策につながると考えます。

職員の対応については、90%以上の方から良い評価をいただいた一方、職員の説明不足・接客等の改善要望が30件ありました。これを受け、職員教育を実施し、職員一人ひとりが身だしなみ・接客についての自己評価をし、自覚を高める取り組みを行っています。

その他、表示や駐車場等に関しては、わかりやすい表示への変更や、時間制限はありますが隣接の広島中央駐車場を利用できるよう少しずつ改善してきました。皆さんの声を全職員が自分の問題として捉え、原因を分析し患者さんの立場に立って改善に取り組んでまいります。しかし、改善には医療提供者だけでは限界があります。是非、皆さんのご協力をお願いします。ご意見・ご要望を、皆さんが気軽に話していただける窓口が医療支援センター(西棟1階)にありますので活用ください。

私たちは思いやりの気持ちを大切に、患者さん・ご家族から「この病院を受診してよかった」と満足していただける病院を目指して努力を続けてまいります。

【表1】設置等に関する印象



栄養室から

野菜、足りていますか？

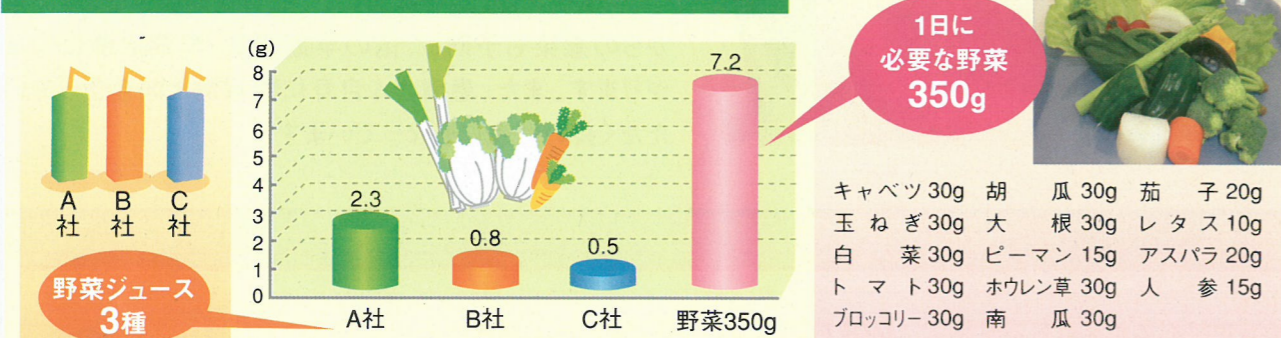
食事の基本は、

『①1日3食きちんと食べる ②野菜を毎食しっかり食べる ③よく噛んで食べる』です。

最近では、野菜を食べるように努力されている方も多と思います。しかし、毎食しっかり食べるとなると、なかなか難しいのではないのでしょうか？1日に必要な野菜は350gです。1食当たり100g以上を食べなければなりません。野菜を食べるとは、色々なビタミンと食物繊維を食べるとのことです。

最近では、野菜が食べにくい方のために『1日分の野菜(350g)をジュースにしました』という製品が、色々なメーカーから登場しています。本当に野菜ジュースを1本飲めば、野菜を食べたことになるのでしょうか？お店で販売されている野菜ジュースに含まれている食物繊維の量を調べてみました。

野菜ジュース1本(200ml)に含まれる食物繊維の量(g)



- 1日に必要な野菜 350g
- キャベツ 30g 胡瓜 30g 茄子 20g
 - 玉ねぎ 30g 大根 30g レタス 10g
 - 白菜 30g ピーマン 15g アスパラ 20g
 - トマト 30g ホウレン草 30g 人参 15g
 - ブロッコリー 30g 南瓜 30g

野菜ジュースに含まれている食物繊維の量は、同量の野菜を料理して食べた場合と比較すると、1/3以下しかありません。つまり、『野菜ジュースでは食物繊維は補えない』ということです(青汁に含まれている食物繊維も1包あたり1g未満の製品が多いようです)。

野菜を食べれば、食物繊維がたっぷり摂れ、満腹感もたっぷりあり、ダイエットには、ぴったりです。野菜は茹でたり蒸したりすれば、あっという間に必要な量を食べることができます。お料理が苦手な方は、電子レンジを利用すればとっても簡単に料理できます。ぜひ今日から試してみてください。

基本理念

広島市中核病院として、患者さんの立場を尊重し、質の高い医療を提供します。

～基本理念実現のための3つの柱～

1. 患者さんの立場を尊重し、信頼され満足される医療を提供します。
2. 地域医療機関との連携のもとに、急性期医療を中心に高度な医療を提供します。
3. 健全な病院運営に努め、良質で安全な医療を提供します。

患者さんの権利に関する宣言とお願い

広島市立広島市民病院は、信頼され満足される医療を提供するため、次のような患者さんの権利を尊重します。

1. あなたには、個人として尊重される権利があります。
2. あなたには、良質で適切な医療を平等に受ける権利があります。
3. あなたには、診療に関して十分な説明と情報提供を受ける権利があります。
4. あなたには、自分自身の治療などについて、自分の意見を述べ、自ら決定する権利があります。
5. あなたには、当院での医療に関するプライバシーを保護される権利があります。

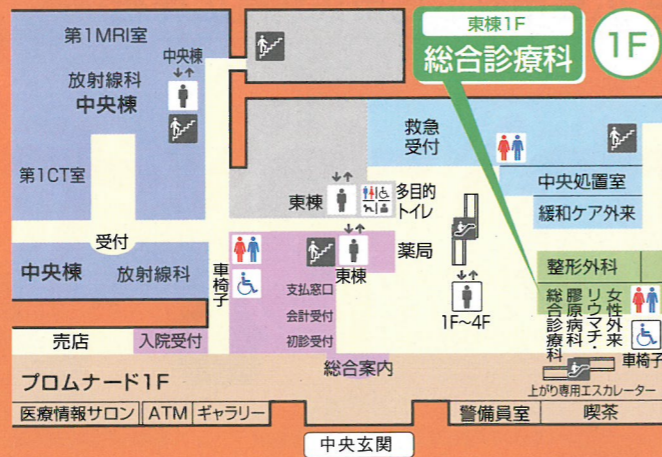
これらの権利を守り、より良い医療を実現するには、患者さんと医療提供者とが力を合わせて取り組む必要があります。そのために、患者さんも積極的に医療に参加・協力する責任があることをご理解のうえ、ご協力くださるようお願いいたします。

外来診療のご案内

- 診療受付時間 休診日 紹介状持参のお願い
- 午前8時30分～午前11時00分 土曜日、日曜日、祝祭日、8月6日、
*【眼科】火・木曜日 年末年始(12月29日～1月3日)
午前10時00分まで
- 初診時、他の医療機関からの紹介状をお持ちでない場合、保険診療費のほか1,570円のお支払いが必要となります。初診の際には、紹介状をお持ちください。

総合診療科

各専門科に高度に分化した当院のような大病院にあつてどの科にかかれればよいのかわからない患者さん、多くの症状を抱える患者さん、救急診療部を夜間に受診した患者さんの経過観察等を中心に診療を行います。



総合診療科は何をすところ？

総合診療科は2010年4月1日より正式に診療を開始しました。平成18年8月にがん診療連携拠点病院に指定された当院は、がん診療、難病診療、救急診療等の高度に専門化した医療を中心に提供する体制となっており、以前のように、風邪症状、高血圧などの軽症患者、特に紹介状を持たずに来院される患者さんの診療を行うことが非常に困難となっていました。このように各専門科に高度に分化した当院において、特に紹介状を持参されていない発熱、腹痛、風邪症状等の軽症患者さん、あるいはどの科にかかれればよいのかわからない患者さん、救急診療部を夜間・休日に受診した経過観察の必要な患者さんを中心に診療を行っています。

どのような診療を行っているのでしょうか？

診療を開始して4カ月が経過しましたが、一日の総合診療科受診患者数は月曜日、火曜日が30人台と多く、少ない日は15人程度です。救急診療部からの診察依頼が10人を超える日もあります。救急診療部からの紹介の方を除くと、身体的症状よりも精神的な症状が主体と思われる方が非常に多く、検査等を行っていかにか心配ないかを納得していただくことが非常に大切と考えています。またいろいろな病院を受診したが良くならない、あるいはその病院の診療に納得できないということで紹介状を持たずに受診される方も多いようです。原則的にはかかりつけ医とよく相談するようお話させていただいておりますが、強い希望があれば当然当院でもう一度精査を行っています。ただし、当院は全国でも有数の患者さんが受診する大病院であり、CT、内視鏡等の検査が

1カ月以上先でないと予約できないこともよくあります。そのような場合には、他院と連携、紹介させていただくことがあります。さらに診断がついた後も、悪性腫瘍、難病、緊急を要する疾患等でない場合には原則的に、適切なかかりつけ医への逆紹介をさせていただいております。

総合診療科のスタッフは？

現在担当医師は全員が内科等との兼任で診療を行っており、専属(専従)の医師はいません。そのために午後からはそれぞれが総合診療科以外の業務をこなしておりますので、午後に受診された方は緊急性のある方を除いては、受付にて午後診療を行っている他院を紹介させていただいております。

このようにまだまだ診療科としてはスタッフも兼務医師のみで、もっぱら3月までは専門的な診療に従事していたためにいろいろ不慣れな点もあるかと思いますが、高度に専門的な医療を提供する当院の各専門科と、風邪や胃腸炎、あるいは軽症の糖尿病、高脂血症、高血圧などみていただくかかりつけ医との橋渡しとなるよう頑張っていきたいと考えています。



医師の紹介(前列左から)
高沢副部長、松本医師、岡本主任部長、中園部長、岩本部長

看護部

シリーズ 病棟紹介 中央棟 6階 病棟

足病変を予防するフットケア



中央棟6階病棟は、消化器・内分泌疾患などを主体とする内科系の病棟です。その内の約半数が糖尿病を有する患者さんです。

糖尿病が進行すると、四肢の末端の神経障害や血行不良が起こり、しびれ感や冷感を自覚ようになります。また、わずかな傷で簡単に感染を引き起こし、組織が腐敗して、最悪の場合、足の切断を余儀なくされる場合があります。

フットケアは、足を清潔にし、血行を回復させます。爪からの感染も予防し、傷の早期発見・早期治療につながります。また、患者さん自身に糖尿病と向き合っていたく良い機会にもなっています。

健康管理センター

最近、健診でメタボリック症候群と診断される方が増えています。メタボリック症候群とは、内臓脂肪の増加がもとで、糖尿病、高脂血症、高血圧などを引き起こす生活習慣病です。

日本人の平均寿命は世界でも最高の水準にありますが、3大死因である癌・心臓病・脳卒中は、生活習慣病が関わっている場合が多く、その代表であるメタボリック症候群に対しては国を挙げての健康指導の取り組みが始まっています。まずは食生活を見直すこと、それからウォーキングなどの運動が大切ですが、かかりつけ医のおられる方は担当医の先生と相談してください。



一方で、禁煙指導も活発になってきました。喫煙者のまわりの人が煙によって受ける健康被害が問題視され始め、公共の場所では禁煙が当たり前になってきています。

当センターの受診者も50歳代以上ではタバコをすでにやめた人が増えています。しかし、30~40歳代ではまだまだやめる意思のない人も多く、残念なところ。最近は禁煙外来を積極的に行っている医療機関も増えてきましたので、独力で禁煙できなかった方は、相談してみられてもよいでしょう。

生活習慣病は、はっきりした自覚症状があらわれないという難点があります。当センターでは、こうした疾患の早期発見に取り組むため、健康診断を行っています。

自分自身が本当に健康かどうかを確認するために、年に1回、人間ドックで総合的な健康診断を受けられることをお勧めします。



人間ドックは 病気になる前のホームドクターです!!

当センターのスタッフ(兼務等含む)は、医師19名、看護師9名、臨床検査技師6名、放射線技師3名、事務11名のほか、内科、脳神経外科、放射線科、産婦人科、眼科等の医師が各々専門分野を担当し、精度の向上や見逃し防止に努めています。